

ご協力ありがとうございました！調査結果の概要を報告します

居宅介護支援事業所及び介護支援専門員による介護予防支援等に関する状況調査 結果報告

居宅介護支援事業所及び介護支援専門員の皆様におかれましては、介護保険制度の運用に関し、日頃からご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

要介護・要支援の認定を受けた人が、安心してその人らしい生活を送るためには、必要なサービスを受けられる環境が不可欠で、介護サービス事業者と利用者をつなぐ介護支援専門員の皆様の役割が欠かせません。

今回、介護保険制度を今後も適切に運用していくため、居宅介護支援事業所及び介護支援専門員の皆様の実態把握を目的に、状況調査（アンケート及びヒアリング調査）をさせていただきました。結果の概要などを報告します。

ご多用の中ご協力いただき、ありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

【1】アンケート調査（令和6年10月）の結果概要

- 対象**
- 市内の居宅介護支援事業所（回答34事業所）
 - 市内事業所所属の介護支援専門員（回答98人）

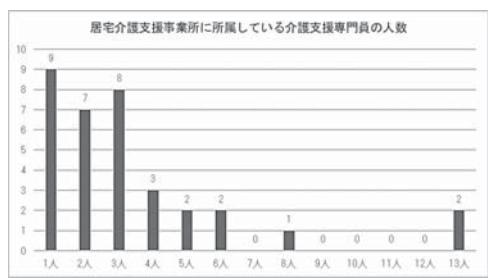
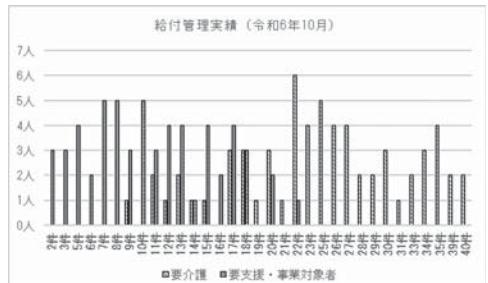
主な内容

◆事業所からの回答◆

- 約6割の事業所が、介護支援専門員が不足していると回答。
- 要支援・事業対象者の担当件数について、事業者の意向は「現状を維持したい」が約5割、「可能であれば減らしたい」が約4割。

◆介護支援専門員からの回答◆

- 介護支援専門員としての仕事を、約4割が「10年後まで」続けたいと回答。
- 担当できる件数は、約4割が「要介護・要支援とも余力が無い」
- 申請手続きなどのオンライン化について、「活用したい」意向が約6割。約2割は、「あまり活用したくない又は活用したくない」と回答。



【2】ヒアリング調査（令和6年11月～12月）の結果概要

- 対象**
- 市内の居宅介護支援事業所（訪問41事業所）

主なヒアリング項目

- プランの対応、事業継続の手立て、業務改善等

主な内容

◆ヒアリング項目をもとにした内容◆

- 介護支援専門員はひとりで多くのケースを管理し、不測の事態を含め多岐にわたる業務に追われている。
- 人材不足であり、募集しても応募がない状況。
- 介護支援専門員の新たな担い手がない。
- 予防プランは報酬が低く、業務量に見合わない。
- 情報開示の取得や介護認定区分の変更申請手続きを、オンライン化するなど業務改善が必要と認識。
- 資格の取得、更新の費用と手間が大きく負担。
- 介護保険と無関係な業務を求められている現状。
- 介護支援専門員の給料が、業務量に見合っていない。
- 予防プランは、プラン料の安さや大きい業務負担で、委託の件数を増やすことは困難。

- 介護支援専門員に関する利用者の正しい理解が必要。
- 担当件数だけで業務量を量れない。

◆その他話題になった内容◆

- 予防プランの委託は、依頼のタイミングにより受け取れることがあることもある。
- 介護支援専門員の資格は持っていても、介護支援専門員の業務に従事したがらない人も多い印象。
- 介護支援専門員の本来業務でなくとも、業務の位置付けになれば対応しやすいこともある。

調査を通じた考察（明らかになったこと）

- 介護支援専門員の不足や業務過多で、余力がないと感じている事業所が多く、業務の整理や、業務に見合う報酬（予防プラン料）が求められている。
- 関係事務や諸手続き等が煩雑であり、事務の効率化・簡略化が求められている（地域包括支援センターとのやりとり、認定更新申請の手続きで市役所へ行かなければならぬ等）
- 介護支援専門員の資格取得・更新の要件緩和が求められている（費用・研修受講時間・手間が大きい）
- 介護支援専門員資格を有して他の業務に携わっている人の中には、年齢を重ねたり身体を使う業務が困難になった際に、介護支援専門員として働きたいと考えている人もいる。このため、介護支援専門員が年齢を問わずに働き続けることができる環境づくりが求められる。

報告書の全体及びアンケート、ヒアリングの結果については、別途、市介護支援専門員連絡協議会ホームページでお知らせしています。ご参考ください。

編集後記

猛暑の中みなさんお仕事お疲れ様です。梅雨明けが驚くほど早く、連日35℃以上で体力が持ちませんね。令和の米騒動も沈静化せず、日照りが続くと野菜の高騰も心配、自然災害も未曾有の事が起きたるではと漠然とした不安があります。モニタリング訪問も大変な時期です。不安も大きく体力もバテバテですが、楽しいことをたくさんしてストレス発散と冷感対策で猛暑をみんなで乗り切りましょう！〈K9〉